

東京国際大学 vs 東京農業大学

9月11日(水)
11:30K.O.
朝鮮大G

初戦を逆転勝利で飾って磐石の態勢を築きつつある東国大と、3失点の敗戦で下位グループとの勝点差が縮まった東農大との対戦。今季、都県からの昇格チーム同士だが、ともに上位グループでの対戦というのは珍しい。

天皇杯本戦の戦いから中3日での公式戦となった東国大は、青学大に3-2で勝利したものの苦しい試合展開を余儀なくされた。前半は青学大にボールを持たれながらもカウンターで反撃し、21分にMF若井祥吾(3年)が技ありのPKを決め先制。後半に入ると「変に余裕を持ってリズムが崩れてしまった」(前田秀樹監督)というように、相手DFが退場した後に逆転を許してしまった。しかし、そこからは1人少ない相手のスペースをしっかりと突き、再び逆転して確実に勝点3をマークした。「総理大臣杯から2連敗中だったので大きな意味を持つ勝利」(前田監督)。攻撃にかかった時の周囲のサポートが厚く決定力が高い。これで再び波に乗るか!?

対する東農大は前節、平国大に1-3で敗れた。しかも先に3点を奪われての敗戦に、木村俊夫コーチは「初戦で体が固かった。立ち上がり点を取られて焦る時間が多かった」と嘆いた。雷に影響による試合開始の遅れというイレギュラーな要素もあったが、7分に許したセ

ットプレーからの失点が試合の流れに大きく影響してしまったようだ。前半戦も先制された試合は勝利していない。後半ロスタイムに1点を奪って意地を見せたが、3失点が多い数字。先行してリズムをつくっていききたいが、東国大の高い決定力を誇る攻撃をどう抑えていけるかがポイントとなる。

<出場停止>なし / 3回警告: 伊東駿多・加藤龍治・赤崎俊太(東国大)、村山翔(東農大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東国大		東農大	
6. 鹿糠	17. 小玉	12. 徳田	
5. 川島	4. 加藤	18. 今野	3. 田村
10. 若井		10. 浜田	
21. 今野		11. 井上	30. 矢口
14. 上船		14. 石川	6. 中垣内
3. 阿部	9. 福島	19. 岡庭	5. 櫻岡
11. 高橋		27. 加藤	
2. 伊東			

朝鮮大学校 vs 平成国際大学

9月11日(水)
13:50K.O.
朝鮮大G

今節で唯一、後半戦初戦を勝利したチーム同士の対戦。昨季の対戦では平国大に分があるが、勝点1差の対戦はいかに。

朝鮮大は前節、2位の駒大を2-1で破った。まだ試合の落ち着かない試合開始3分に一瞬の隙を突いて先制点を奪い、後半にも62分にセットプレーから追加点を奪った。試合展開としては、奪ったボールを素早く前線に送るといったような戦術での戦いとなり、特に後半はサイド攻撃から何度も決定機をつくられたが、82分の1点に抑えて逃げ切った。GK李在根(2年)の好守もあったが、金載東監督が「ある程度押し込まれることは予想していたが、皆が一体となって耐え抜けたことが勝因」と話したように、全体的に集中力が高く粘り強い守備を見せたことが勝利につながった。しかし、「守備から攻撃につなげることをもっと改善しないと」(金監督)。守備の時間を減らし効果的な攻撃を見せられるか。

対する平国大も前節は、東農大を3-1で破って後半戦の好スタートを切った。試合前の練習で負傷者が出てしまったが、代わった選手が劣らぬパフォーマンスをするのは平国大の最大の特長。試合開始7分でセットプレーから先制して優勢に立ち、後半も効果的に追加点を挙

げた。「最後(後半ロスタイム)の失点は課題だが、90分間、個人ではなくチームで戦おうとしていた。そういう点が見えたのは良かった」(西川誠太監督)。東農大も決して出足の悪いチームではないが、この日は積極的で相手を上回った。FW星子直哉(2年)、FW堀越龍也(3年)と攻撃陣が好調だ。

<出場停止>慎鐘紀(朝鮮大) / 3回警告: なし
<昨年の対戦>前期 / 朝鮮大0-0平国大、後期 / 朝鮮大3-4平国大

朝鮮大		平国大	
23. 安泰永	12. 姜光	16. 増田	
3. 李教俊	14. 朴利基	11. 千葉	26. 小松崎
6. 任良太		6. 本田	
1. 李在根		10. 堀越	30. 馬屋原
21. 康貴成		9. 星子	17. 坂本
2. 李永照	16. 韓勇俊		2. 須藤
17. 高志煌		19. 堀越	
15. 趙顕一		3. 深井	

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています*

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.11
編集: 五味亜矢子 発行: 関東大学サッカー連盟 協力: 関東大学サッカーサポーターズクラブ



東国大は無敗守るも上位総崩れ

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグが再開したが、後半戦初戦は首位の東国大を除いて上位陣が総崩れとなる波乱の幕開けとなった。4 位につける青学大と対戦した東国大はシーソーゲームを 3-2 で制して無敗を守ったが、首位を追う駒大は朝鮮大に 1-2 と苦杯を舐め、さらに 3 位の関学大は神大に 0-2 と完封負けを喫してしまった。また、5 位の東学大は法大に 0-1、6 位の東農大も平国大に 1-3 で敗れ、順位変動はまったく無し。上位グループと下位グループの差がぐっと縮まった。

今節も 4 試合が上位グループ vs 下位グループという対戦になるが、下位グループが勢いに乗って連勝を飾るか、あるいは上位グループが意地を見せるか。13 節分を戦う長丁場となる今季の後半戦。始まっ

得点ランキング		アシストランキング	
8: 山本 大貴 (駒大)		5: 佐伯 拓磨 (東国大)	
7: 小牟田洋佑 (駒大)		4: 田中 雄一 (駒大)	
6: 内野 裕太 (拓大)		今野 順 (東農大)	
伊東 純也 (神大)		3: 高橋 明嗣 (東国大)	
星子 直哉 (平国大)		碓井 鉄平 (駒大)	
5: 堀越 龍也 (平国大)		茶島 雄介 (東学大)	
4: 計 7 人		西岡 梧郎 (拓大)	
		長野 祐太 (神大)	

たばかりではあるが、連敗は避けたいところだ。また、前半戦から旋風を巻き起こしてきた東国大が無敗のまま、対戦の1巡目を終えるかどうかも注目である。

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第10節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	関学大	青学大	東学大	東農大	朝鮮大	拓大	神大	平国大	法大	東海大	勝数	負数	得点	失点	得失差		
1	東国大		100	401	302	201	9/11	201	301	100	1Δ1	400	300(没収)	9	0	1	24	7	17	28
2	駒大	0●1		200	401	402	302	1●2	200	401	3●4	9/11	401	7	3	0	27	14	13	21
3	関学大	1●4	0●2		0Δ0	400	0●3	400	9/11	0●2	300	201	300(没収)	5	4	1	17	12	5	16
4	青学大	2●3	1●4	0Δ0		100	1Δ1	1●2	100	201	0Δ0	401	9/11	4	3	3	13	12	1	15
5	東学大	1●2	2●4	0●4	0●1		201	200	201	9/11	301	0●1	201	5	5	0	14	16	-2	15
6	東農大	朝鮮大G	2●3	300	1Δ1	1●2		1Δ1	200	1●3	1●3	100	300(没収)	4	4	2	16	13	3	14
7	朝鮮大	1●2	201	0●4	201	0●2	1Δ1		0●1	1●2	9/11	100	401	4	5	1	12	15	-3	13
8	拓大	1●3	0●2	保土ヶ谷	0●1	1●2	0●2	100		502	2●3	201	301	4	6	0	15	17	-2	12
9	神大	0●1	1●4	200	1●2	三ツ沢	301	201	2●5		301	1●2	1●2	4	6	0	16	19	-3	12
10	平国大	1Δ1	403	0●3	0Δ0	1●3	301	朝鮮大G	302	1●3		1Δ1	2●3	3	4	3	16	20	-4	12
11	法大	0●4	荻野	1●2	1●4	100	0●1	0●1	1●2	201	1Δ1		402	3	6	1	11	18	-7	10
12	東海大	0●3(没収)	1●4	0●3(没収)	荻野	1●2	0●3(没収)	1●4	1●3	201	302	2●4		2	8	0	11	29	-18	6

※東海大は後半戦終了時点で勝点-6となります

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント
勇気は、努力がつくってくれる。
部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
<http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>
RECRUIT

東京学芸大学 vs 神奈川大学

9月11日(水)
11:30K.O.
三ツ沢

昨季1部リーグのチーム同士だが、5位と9位という意外な順位での対戦となった。昨季はもつれた試合内容だったようだが、今季の対戦も接戦となるか。

東学大は前節、法大に0-1で敗れ、勝敗が五分に戻ってしまった。唯一の失点は試合開始4分。結果的に見れば、11位で後のない法大に仕掛けられた先制攻撃に屈した形となった。あっさりとして相手FWの抜け出しを許して先制点を奪われた後は、徐々にボール保持率が高まり攻撃の機会は増えたが、法大守備陣の粘りにあってなかなか得点には至らず。攻撃が中央に集まりがちだった前半戦の反省を生かしてサイドからも攻め込んだが、相手の両SBの守備力も高かった。「決定機はつくることができたので、そこから決め切ることが課題」(西園聡史監督)。セットプレーでは得点率が高いが、FW陣にももう少しゴールという結果がほしいところだ。

一方の神大は、前半戦9位と苦戦を強いられてきたが、後半戦初戦は関学大に2-0という快勝。第4節以来の勝星を手にし、この流れに乗っていききたいところだ。しかし、「あまり良い形でボールが動いているわけでもないし、相手を崩しているわけでもない。しかし勝点3を取ることがウチには必要だった」(高峯弘樹監督)

というように、内容よりも結果を重視したゲームだったと言える。それでも失点を0に抑えたことは一つの収穫。昨季は東学大に1試合4失点を喫しているが、いかに最少失点に抑えられるか。「最後まで諦めずに走るメンタリティなど精神面を準備してきた」(高峯監督)。ずるずると失点を重ねる前半戦の欠点は克服されているか。

<出場停止>なし / 3回警告:なし
<昨年の対戦>前期 / 東学大1-3神大、後期 / 東学大4-3神大(1部)

東学大	神大
5. 廣木	2. 柿崎
8. 佐々木	7. 長野
4. 脇本	9. 岡
15. 菅	10. 伊東
12. 須賀	5. 杉山
23. 平田	28. 武田
2. 大里	21. 池村
13. 中村	16. 前田
19. 荒木	14. 芦野
20. 京田	4. 向山
	8. 須郷
	3. 高木

青山学院大学 vs 東海大学

9月11日(水)
11:30K.O.
荻野

4位の青学大と最下位の東海大。後半戦初戦を敗れたチーム同士だけに、どちらも勝利がほしいところ。

青学大は前節、首位の東国大とシーソーゲームを演じたが、最後は2-3で敗れた。前半は、青学大の持ち味であるボールポゼッションと、東国大の持ち味である鋭いカウンターへの応酬となり、青学大はドリブルとワンタッチパスを交えた組み立てから決定的な形をつくるも先制ならず。逆に21分、PKを与えて失点。後半開始からしばらくは相手にカウンター攻撃のチャンスを与えず、52分に同点としたが、その直後の54分にDF服部真矢(3年)が退場。57分にPKを得て逆転はしたが、前半にDF中村周平(4年)が負傷退場しており、「DFを2枚、代えざるを得ないのは痛かった」(宮崎純一監督)。数的不利は徐々にゲームの流れを変え、そこから2失点して再逆転を許した。退場者を出すまでの内容は悪くなかっただけに、切り替えて臨めるか。

対する東海大は、リーグ戦では第6節以来の公式戦となったが、拓大と対戦して1-3で敗れた。1点を先制されたものの、前半ロスタイムに追いついて終了。後半は拓大のパスワークの精度が上がり、守備に奔走しつつショートカウンターを狙ったが、なかなかシュートに

持ち込めず、結果的にシュートは3本に終わった。「相手に対して自分たちのストロングポイントで戦えなかった。基本的に局面で負けていたので、そこが課題」(後藤太郎監督)。前半戦とはメンバーも変わったところがあり、まずはコンビネーションの質を上げ、自分たちの攻撃をつくり出していきたい。

<出場停止>服部真矢(青学大) / 3回警告:なし
<昨年の対戦>前期 / 青学大3-2東海大、後期 / 青学大2-0東海大

青学大	東海大
31. 諸井	5. 元田
16. 恵	26. 小野
15. 水島	28. 濱村
18. 関谷	3. 小山
12. 高橋	25. 溝口
6. 高山	8. 後藤
10. 木澤	29. 内山
3. 早田	2. 太田代
7. 荒木	13. 森田
13. 久保	16. 寺尾
	23. 木村
	7. 水橋

関東学院大学 vs 拓殖大学

9月11日(水)
11:30K.O.
保土ヶ谷

3位の関学大と、8位の拓大との対戦。勝点差は4。昨季はいずれも、もつれた試合を展開している。今季も点の取り合いとなるのか!?

3位につけているとはいえ、やや波の大きな前半戦だった関学大。後半戦初戦は神大に0-2で敗れ、「完敗」(石村大監督)でのスタートとなってしまった。「リーグ戦再開直後で固さはあったが、中断期間中にやってきたことが半分も出せなかった印象」(石村監督)。しかし、32分と76分の失点はロングボールと自陣でのクリアボールが起点であり、完全に崩されたという失点ではない。むしろ、無得点に終わったことが今節への課題だと言える。神大戦はシュートが5本止まり。前線の選手が相手DFの背後に入っていくことができず、決定機をほとんどつくれなかった。「やってきたことを変えるつもりはない。次がスタートと思って切り替えたい」(石村監督)。

一方の拓大は前節、東海大に3-1と快勝した。PKで先制し、前半ロスタイムに同点とされたが、後半に2点を奪って突き放した。前半戦は6敗を喫していただけに、「後半戦最初の大事なゲームで勝つて言うことはない。皆が持ち味を出してくれた」と、玉井朗監督も喜んだ。前半戦とはだいぶ異なるスタメンで臨んだこともあり、

前半はあまり効果的な攻撃はなかったが、後半になるとパスもつながり始め、意図した形でのゴールにつながった。「これで気持ちを緩めることがないようにしたい」(玉井監督)。前節2得点のFW内野裕太(4年)の出場停止が懸案材料である。

<出場停止>内野裕太(拓大) / 3回警告:土館賢人(関学大)
<昨年の対戦>前期 / 関学大3-3拓大、後期 / 関学大2-3拓大

関学大	拓大
6. 木村	2. 三浦
9. 富樫	15. 唐澤
27. 原島	9. 西岡
10. 橋村	4. 金子
7. 太田	19. 菅能
1. 守山	21. 小林
14. 佐藤	6. 小野
3. 土館	18. 大森
24. 普光院	31. 高橋
8. 山本	24. 末松
5. 山口	26. 小針

駒澤大学 vs 法政大学

9月11日(水)
13:50K.O.
荻野

前節は痛い敗戦を喫した駒大と、白星スタートで波に乗りたいた法大。どちらも負けられないゲームだ。

朝鮮大に1-2で敗れ、第10節にして首位と勝点7差が開いてしまった駒大。3位以下も「共倒れ」になってしまったとはいえ、連敗は許されない状況だ。前節の朝鮮大戦は、立ち上がりのつまづきが痛かった。試合開始3分の失点で、精神的に相手を優位に立たせてしまった。両チームとも基本的には長いフィードを中心とした攻撃を見せるが、パワーでは駒大が一枚上。FW小牟田洋佑(3年)をターゲットに何度も攻め込み相手ゴールに迫ったが、朝鮮大の集中力の前に1点止まり。結果的に、後半に許したセットプレーからの失点が決勝点となった。「もう少しフィニッシュを正確にするとか、最後まで頑張るとか、気持ちの部分改善したい」(岡田誠史コーチ)。駒大らしい粘りを見せられるか。

対する法大は前節、東学大を無得点に抑え、1-0で勝利した。試合開始4分に、ユニバーシアードを経験してきたFW松本大輝(4年)が相手DFの背後に抜け出してあっさりとして先制。その後は追加点を奪うことができなかったが、東学大のポゼッションにもDF陣がよく対応してゴールを許さず逃げ切った。「立ち上がりから積極

的に裏を取れて先制できたのが大きかった。その後も落ち着いて、精神的な成長があった」(大石和孝監督)。今後の課題はさらなる中盤の構成員。前半戦は不振だったが、その後は総理大臣杯出場など調子を上げてきた。これが本物か、真価を問われるゲームとなる。

<出場停止>なし / 3回警告:田代雅也・松本大輝・西室隆規(法大)
<昨年の対戦>前期 / 駒大3-0法大、後期 / 駒大0-1法大

駒大	法大
3. 田中	17. 森保
18. 溝口	9. 深町
25. 嶋谷	2. 宗近
6. 若山	28. 西室
16. 柳川	1. 四宮
9. 小牟田	15. 高橋
7. 碓井	16. 松田
4. 平尾	5. 岩渕
24. 久永	14. 松本
13. 大木	27. 田代
	30. 永戸